



## システム メッセージの概要

---

このマニュアルでは、Catalyst 3750-E および 3560-E 固有のシステム メッセージについて説明します。これらのメッセージは稼働中、システム ソフトウェアからコンソール（および任意で別のシステムのログイン サーバ）に送信されます。すべてのシステム メッセージがシステムの問題を意味するわけではありません。純粹に通知目的のメッセージもあれば、通信回線、内蔵ハードウェア、またはシステム ソフトウェアの問題を診断するうえで役立つメッセージもあります。このマニュアルでは、システムで障害が発生した場合に表示されるエラー メッセージについても説明します。

Catalyst 3750-E および 3560-E プラットフォーム固有ではないシステム メッセージについては、Cisco IOS Release 12.2S に対応する『*Cisco IOS Software System Messages*』を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- [システム メッセージの読み方 \(p.1-2\)](#)
- [エラー メッセージ トレースバック レポート \(p.1-6\)](#)

## システムメッセージの読み方

システム ログメッセージは最大 80 文字と 1 つのパーセント記号 (%) で構成され、設定されている場合にはその前に、オプションとしてシーケンス番号またはタイムスタンプ情報が付加されず。メッセージは次の形式で表示されます。

シーケンス番号: タイムスタンプ: % ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: 記述 (ホスト名 -n)  
(Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)

シーケンス番号: タイムスタンプ: % ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: 記述 (Catalyst 3560-E スイッチの場合のみ)

システム メッセージ出力はデフォルトで、ロギング プロセスに送信されます。スイッチ スタックでは、スタック メンバーがシステム メッセージ出力に各自のホスト名を追加し、スタック マスター上のロギング プロセスに出力を転送します。

各システム メッセージはパーセント記号 (%) から始まります。構成は次のとおりです。

% ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: メッセージテキスト

- ファシリティは 2 つ以上の大文字からなるコードで、メッセージによって参照されたファシリティを示します。ファシリティはハードウェア デバイス、プロトコル、またはシステム ソフトウェア モジュールのいずれかを指します。表 1-1 に、Catalyst 3750-E および 3560-E 固有のファシリティ コードを示します。第 2 章「メッセージおよび回復手順」で、ファシリティ コードのアルファベット順、重大度の高い (数字が小さい) エラーから先に、各メッセージについて説明します。

表 1-1 ファシリティ コード

ファシリティ コード	説明	参照先
ACLMGR	Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) マネージャ	「ACLMGR メッセージ」 (p.2-3)
BACKUP_INTERFACE	Flex Link	「BACKUP_INTERFACE メッセージ」 (p.2-9)
BADTRANSCEIVER	障害トランシーバ メッセージ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「BADTRANSCEIVER メッセージ」 (p.2-9)
BSPATCH	ブート ローダー パッチ	「BSPATCH メッセージ」 (p.2-10)
CFGMGR	設定マネージャ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「CFGMGR メッセージ」 (p.2-11)
CMP	Cluster Membership Protocol	「CLS_ACC メッセージ」 (p.2-14)
DHCP_SNOOPING	DHCP スヌーピング	「DHCP_SNOOPING メッセージ」 (p.2-22)
DOT1X	IEEE 802.1x	「DOT1X メッセージ」 (p.2-26)
DOT1X_SWITCH	スイッチ用 IEEE 802.1x	「DOT1X_SWITCH メッセージ」 (p.2-30)
DTP	Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランッキング プロトコル)	「DTP メッセージ」 (p.2-35)
DWL	Down-When-Looped	「DWL メッセージ」 (p.2-37)
EC	EtherChannel	「EC メッセージ」 (p.2-38)
ETHCNTR	イーサネット コントローラ	「ETHCNTR メッセージ」 (p.2-44)
EXPRESS_SETUP	Express Setup	「EXPRESS_SETUP メッセージ」 (p.2-46)
FRNTEND_CTRLR	フロントエンド コントローラ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「FRNTEND_CTRLR メッセージ」 (p.2-47)
GBIC_SECURITY	GBIC モジュールおよび Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュール セキュリティ	「GBIC_SECURITY メッセージ」 (p.2-48)

表 1-1 ファシリティコード (続き)

ファシリティコード	説明	参照先
GBIC_SECURITY_CRYPT	GBIC および SFP モジュールセキュリティ	「GBIC_SECURITY_CRYPT メッセージ」 (p.2-50)
GBIC_SECURITY_UNIQUE	GBIC および SFP モジュールセキュリティ	「GBIC_SECURITY_UNIQUE メッセージ」 (p.2-52)
HARDWARE	ハードウェア	「HARDWARE メッセージ」 (p.2-53)
HLFM	ローカルフォワーディングマネージャ	「HLFM メッセージ」 (p.2-57)
HPSECURE	ポートセキュリティ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「HPSECURE メッセージ」 (p.2-58)
IGMP_QUERIER	Internet Group Management Protocol (IGMP; インターネットグループ管理プロトコル) クエリア	「IGMP_QUERIER メッセージ」 (p.2-59)
ILPOWER	Power over Ethernet (PoE)	「ILPOWER メッセージ」 (p.2-61)
IMAGEMGR	イメージマネージャ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「IMAGEMGR メッセージ」 (p.2-66)
IP_DEVICE_TRACKING	IP デバイストラッキング	「IP_DEVICE_TRACKING メッセージ」 (p.2-68)
MAC_MOVE	ホストアクティビティ	「MAC_MOVE メッセージ」 (p.2-68)
PHY	PHY	「PHY メッセージ」 (p.2-69)
PIMSN	Protocol Independent Multicast (PIM) スヌーピング	「PIMSN メッセージ」 (p.2-71)
PLATFORM	下位レベルプラットフォーム固有	「PLATFORM メッセージ」 (p.2-72)
PLATFORM_ENV	プラットフォーム環境	「PLATFORM_ENV メッセージ」 (p.2-74)
PLATFORM_FBM	プラットフォームのフォールバックブリッジングマネージャ	「PLATFORM_FBM メッセージ」 (p.2-82)
PLATFORM_HPLM	プラットフォームの疑似ラベルマネージャ	「PLATFORM_HPLM メッセージ」 (p.2-83)
PLATFORM_IPC	プラットフォームのプロセス間通信プロトコル (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「PLATFORM_IPC メッセージ」 (p.2-84)
PLATFORM_PBR	プラットフォームの Policy-Based Routing (PBR; ポリシーベースルーティング)	「PLATFORM_PBR メッセージ」 (p.2-86)
PLATFORM_PM	プラットフォームのポートマネージャ	「PLATFORM_PM メッセージ」 (p.2-88)
PLATFORM_RPC	プラットフォームのリモートプロシージャコール (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「PLATFORM_RPC メッセージ」 (p.2-90)
PLATFORM_SPAN	プラットフォームの Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ)	「PLATFORM_SPAN メッセージ」 (p.2-93)
PLATFORM_UCAST	プラットフォームのユニキャストルーティング	「PLATFORM_UCAST メッセージ」 (p.2-94)
PLATFORM_VLAN	プラットフォームの VLAN (仮想 LAN)	「PLATFORM_VLAN メッセージ」 (p.2-97)
PLATFORM_WCCP	プラットフォームの WCCP	「PLATFORM_WCCP メッセージ」 (p.2-98)
PM	ポートマネージャ	「PM メッセージ」 (p.2-99)
PORT_SECURITY	ポートセキュリティ	「PORT_SECURITY メッセージ」 (p.2-109)
QOSMGR	QoS マネージャ	「QOSMGR メッセージ」 (p.2-111)
RMON	Remote Network Monitoring (RMON)	「RMON メッセージ」 (p.2-118)

表 1-1 ファシリティコード (続き)

ファシリティコード	説明	参照先
SDM	Switch Database Manager (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「SDM メッセージ」(p.2-118)
SPAN	SPAN	「SPAN メッセージ」(p.2-119)
SPANTREE	スパニングツリー	「SPANTREE メッセージ」(p.2-121)
SPANTREE_FAST	スパニングツリー高速コンバージェンス	「SPANTREE_FAST メッセージ」(p.2-130)
SPANTREE_VLAN_SW	スパニングツリー VLAN スイッチ	「SPANTREE_VLAN_SW メッセージ」(p.2-130)
STACKMGR	スタックマネージャ (Catalyst 3750-E スイッチの場合のみ)	「STACKMGR メッセージ」(p.2-131)
STORM_CONTROL	ストーム制御	「STORM_CONTROL メッセージ」(p.2-134)
SUPERVISOR	スーパーバイザ Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路)	「SUPERVISOR メッセージ」(p.2-135)
SUPQ	スーパーバイザキュー	「SUPQ メッセージ」(p.2-136)
SW_DAI	ダイナミック ARP インスペクション	「SW_DAI メッセージ」(p.2-138)
SW_MACAUTH	MAC アドレス認証	「SW_MACAUTH メッセージ」(p.2-141)
SW_QOS_TB	QoS 信頼境界	「SWITCH_QOS_TB メッセージ」(p.2-142)
SW_VLAN	VLAN マネージャ	「SW_VLAN メッセージ」(p.2-143)
TCAMMGR	Ternary Content Addressable Memory (TCAM) マネージャ	「TCAMMGR メッセージ」(p.2-151)
UDLD	UniDirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出)	「UDLD メッセージ」(p.2-153)
UFAST_MCAST_SW	UplinkFast パケット転送	「UFAST_MCAST_SW メッセージ」(p.2-155)
VQPCCLIENT	VLAN Query Protocol (VQP) クライアント	「VQPCCLIENT メッセージ」(p.2-156)
WCCP	Web Cache Communication Protocol (WCCP)	「WCCP メッセージ」(p.2-160)

- 0～7の1桁のコードで、状態の重大度を表します。数字が小さいほど深刻な状況です。表 1-2 に、メッセージの重大度を示します。

表 1-2 メッセージの重大度

重大度	説明
0 – emergency	システムが使用不可能な状態
1 – alert	ただちに対応が必要な状態
2 – critical	クリティカルな状態
3 – error	エラー状態
4 – warning	警告状態
5 – notification	正常だが注意を要する状態
6 – informational	単なる情報メッセージ
7 – debugging	デバッグ時に限り表示されるメッセージ

- ニーモニックは、メッセージを一意に識別するコードです。
- メッセージテキストは状態を説明したテキスト文字列です。メッセージのこの部分には、端末ポート番号、ネットワークアドレス、またはシステムメモリアドレススペースの位置に対応するアドレスなど、イベントの詳細情報が含まれることがあります。この可変フィールドの情報はメッセージごとに異なるので、ここでは角カッコ ([ ]) で囲んだ短い文字列で示します。

たとえば10進数は [dec] で表します。表 1-3 に、メッセージの可変フィールドを示します。

表 1-3 メッセージの可変フィールドの表記

表記	情報のタイプ
[dec]	10進整数
[char]	1文字
[chars]	文字列
[enet]	イーサネットアドレス (たとえば 0000.FEED.00C0)
[hex]	16進整数
[inet]	インターネットアドレス

マスタースイッチ以外の Catalyst 3750-E スイッチが生成した Syslog メッセージは、必ず (*Switch-x*) で終わります。*Switch-x* は、メッセージを生成したスタックメンバーの番号です。マスタースイッチが生成した Syslog メッセージは、ホスト名の文字列なしで表示されます。

次の例は、Catalyst 3750-E スイッチ以外のスイッチのスイッチシステムメッセージの一部分です。

```
00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/1, changed
state to down 2 *Mar 1 18:46:11: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2
(10.34.195.36)
18:47:02: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
*Mar 1 18:48:50.483 UTC: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2
(10.34.195.36)
```

次の例は、Catalyst 3750-E スイッチスタック内のスタックマスターおよびスタックメンバースイッチ (ホスト名は *Switch-2*) に対応するスイッチシステムメッセージの一部分です。

```
00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/2, changed state to up
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet1/0/1,
changed state to down 2
*Mar 1 18:46:11: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
18:47:02: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
*Mar 1 18:48:50.483 UTC: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2
(10.34.195.36)

00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up (Switch-2)
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/1, changed state to up (Switch-2)
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/2, changed state to up (Switch-2)
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
(Switch-2)
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet1/0/1,
changed state to down 2 (Switch-2)
```

## エラーメッセージトレースバックレポート

メッセージの中には、内部エラーが記述され、トレースバック情報が含まれているものがあります。この情報は非常に重要です。テクニカルサポートの担当者に問題を報告するときに、必ず提出してください。

次のメッセージ例にはトレースバック情報が含まれています。

```
-Process= "Exec", level= 0, pid= 17  
-Traceback= 1A82 1AB4 6378 A072 1054 1860
```

システムメッセージによっては、エラーメッセージをコピーしたうえでさらに対応を要求される場合があります。次のオンラインツールからシステムエラーメッセージの詳細を得ることもできます。

## アウトプットインタープリタ

アウトプットインタープリタは、**show tech-support** 特権 EXEC コマンドなど、さまざまな CLI (コマンドラインインターフェイス) コマンドの出力に基づいて、詳細情報および推奨する対応策を提供します。アウトプットインタープリタには、次の URL からアクセスしてください。

<https://www.cisco.com/cgi-bin/Support/OutputInterpreter/home.pl>

## Bug Toolkit

Bug Toolkit は、解決済みまたは未解決の問題点に関する情報を提供します。特定の Cisco IOS リリースで既知のバグをすべて検索できます。Bug Toolkit には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/home.pl>

## TAC への連絡

エラーの種類を特定することができない場合は、「[マニュアルの入手方法](#)、[テクニカルサポート](#)、および[セキュリティガイドライン](#)」(p.x) を参照してください。